



～第52回 東京都野菜・花き種苗改善審査会～
豊富な花色・草姿が魅力のペチュニアを紹介します

平成22年5月10日(月)、東京都農林総合研究センターを会場にして、東京都種苗研究会主催「第52回野菜・花き種苗改善審査会ペチュニアの部」が開催されました。審査は都農業振興事務所職員、普及指導員、JA職員、種苗会会員、農総研研究者ら14名で行いました。

1 出品点数 18点

2 審査結果

入賞品種は以下の通りです。

等級	品 種 名	出 品 社
I	バカラ ホワイト	(有)野崎種苗園
II	F1 Rond ローズ	タキイ種苗(株)
III	F1マンボ ピンクモーン	(有)東京花壇
III	F1 Rond ディープサーモン	タキイ種苗(株)
III	デボネア ライムグリーン	(株)ミヨシ



上：I等
バカラ ホワイト
右：II等
F1 Rond ローズ



3 栽培概要

(1) 播種及び育苗管理

- ①播 種 平成22年1月14日に、市販播種用土(商品名：タキセル培土TM-2)を詰めた406穴セルトレイへ、1穴1粒で播きました。
- ②育苗場所 当センターガラス温室。
- ③灌 水 2月8日まではセルトレイの底部から底面給水を行い、9日以降は頭上灌水。
- ④追 肥 2月12、19日にそれぞれ液肥20-20-20(商品名：ハイポネックス)2,000倍液(N=100ppm)を施用しました。

(2) 鉢上げ以降の栽培管理

- ①鉢上げ 2月24日、本葉3～5枚時に3.5号黒ポリポットに1本植えて鉢上げしました。鉢上げ用土は、赤土：腐葉土：ピートモス=5：3：2(体積比)として、基肥は用土100ℓ当たり、被覆複合肥料14-12-14(商品名：エコロング424-100)=300g、化成肥料6-40-6(マグアンプK中粒)=200g、過リン酸石灰0-17-0=250gとしました(用土100ℓ当たり成分量でN=54g、P₂O₅=158g、K₂O=54g)。
- ②灌 水 頭上灌水で行い、5月6日以降は底面灌水を適時実施しました。
- ③追 肥 3月26日および4月26日に、化成肥料12-12-12(商品名：プロミック錠剤スタンダードタイプ中粒)を鉢当り1粒施用しました。

本審査会における各品種の開花盛期は、早生・晩生品種とも5月連休中となり、審査当日はやや花が咲き進んだ状況でした。しかし、各品種とも花びるいや側枝徒長も少なく、審査員は出品物を手に取りながら評価しました。(園芸技術科)

～第52回 野菜・花き種苗改善審査会～

揃いが良くて、肌がきれいな“春まきダイコン”を紹介します

平成22年5月13日（木），東京都農林総合研究センターを会場にして，東京都種苗研究会主催 “春まきダイコン” の品種審査会が行われました。出品点数は参考品種5点を含めた25点でした。

審査には，都農業振興事務所職員，普及指導員，JA職員，種苗会会員ら32名が参加し，公正かつ厳正に立毛100点および収穫物300点の配点による審査を行いました。

入賞品種は以下の通りです。

等級	品 種 名	出 品 社
I	カネコ交配 N-08T37	タキイ種苗（株）
II	武蔵野交配 若里	（株）武蔵野種苗園
II	晩々G（RA-277）	雪印種苗（株）
III	タキイ交配 TDA-705	タキイ種苗（株）
III	はこいり娘	朝日工業（株）
III	ND-21	（株）日本農林社

（園芸技術科）



I等 カネコ交配 N-08T37



II等 武蔵野交配 若里

～「土」って言うけれど…～

「東京の土」を紹介します

一口に「東京の土」と言っても，その種類は多く，大きく分けても十数種類あります。今回，その中でも区部・多摩地区で特徴的な3種類の土について紹介します。



最初に紹介するのは黒ボク土です(写真①，②)。この土は台地上に広く分布している富士山・箱根の火山灰から生成した軽い土です。肥料もち，水もち，水はけは中～良好で，主に畑や樹園地として利用されています。他の土に比べ，リン酸肥料が効きにくいので，リン酸を多めに施肥する必要があります。しかし，一部の畑や土でリン酸の過剰蓄積が発生しているので，リン酸の施肥には注意が必要です。同じ黒ボク土でも，①は②に比べ表層に有機物(腐植)を多く含んでいるので，色は黒くみえます。



写真③は灰色低地土です。この土は河川の流れにより，土砂が堆積してできた比較的新しい土で，多摩川周辺に分布しています。肥料もちや水はけは普通ですが，石や砂が多い場合があります，そのような土では肥料もちなどは低下します。

ここで紹介したものは，東京の土のほんの一部です。皆様の身近な土がどんな土か，一度よく観察してはいかがでしょうか。

（生産環境科）

～エダマメの大敵「ダイズシストセンチュウ」～ センチュウ卵の生死を区別するには？

当センターでは、都内の直売品目として人気が高い、エダマメの栽培地域の一部で発生し、葉の黄化や生育不良を引き起こす「ダイズシストセンチュウ」の防除対策試験に取り組んでいます（本紙第2号・7号を参照）。対策としては薬剤や、土壌に高温の蒸気を注入する蒸気散水消毒などを検討しています。これらの処理による効果の判定には、土壌中のセンチュウの卵の生死を判別することが重要ですが、通常の顕微鏡による観察では判別は極めて困難で（写真 a）、また、エダマメの栽培による判定では、結果が出るまでに1ヵ月以上もの長い時間を要します。

そこで、医学関連分野で利用されている、生きた細胞は色素を排除する性質があるため染まらないが、死んだ細胞は染まるという性質を、ダイズシストセンチュウ卵の生死判別に応用してみました。

薬剤処理や加熱処理したセンチュウの卵を、各種の色素で処理し、『生きている卵は染まらないが死んだ卵は染まる』色素を探しました。その結果、トルイジンブルーという色素で生・死の判別が可能であることを明らかにしました（写真 b～d）。これにより、各種防除対策試験の効果判定に要する時間の短縮が図れるだけでなく、より正確な判定が可能となります。（生産環境科）



染色による線虫卵の生・死判別。
a：染色前の生存卵と死亡卵。
b：染色後の生存卵（無色～薄青）と死亡卵（濃青）。区別可能。



染色による線虫卵の生・死判別。
c：生存卵（染まらない）。
d：死亡卵（濃い青色に染まる）。

～地元のおいしい野菜を応援します～ 野菜の展示栽培をお役立て下さい

江東地区は、近年、美味しい野菜を地元の消費者に提供する農産物直売所が開設、「葛飾元気野菜直売所」を運営するJA東京スマイル葛飾直売部会をはじめ、各区に様々な形態の直売所が設置されています。

江戸川分場では、こうした直売に向く野菜の展示栽培を、今年度も行っています。コマツナをはじめ、エダマメ、トマト、ナス、キュウリ、ピーマン、シシトウ、スイートコーン、オクラなど数多くの野菜が作られています。作型は主に露地栽培です。トマト、キュウリなどの果菜類は、支柱を使った整枝法をご覧ください。

管内には農業後継者が多く（後継者のいる割合 54%）、農業技術の継承が親世代から後継者に行われています。後継者の方々は新しい技術習得にも真剣に取り組まれています。展示栽培はこうした方々に参考となるような学習材も兼ねています。

更に、小・中学生の社会科学習の教材をはじめ、大学生や都民の方にも幅広く公開しています。ご希望の方は、見学希望日程を事前にご連絡下さい。お待ちしております。（江戸川分場）



トマト キュウリ



ナス



スイートコーン

～埋土種子をご存知ですか？～

森林・林業関係研究発表会を開催しました

当センターでは、主に森林・林業の関係者並びに森林・林業に興味の持つ都民の方々に向けて、毎年「森林・林業研究発表会」を開催しています。

今年度も5月18日に「人工林内の埋土種子*について」、「伐採跡地の植生パターン」、「グレーチングでシカの歩行は阻害できる？」の3課題について発表しました。また、トピックスとして、花粉の少ないスギの種子を青梅で本格的に生産を始めたことを報告しました。（※埋土種子とは、土のなかに存在していて発芽していない種子のことです。）

今回の発表会では、埋土種子調査の際に発芽した植物を「埋土種子の実生写真集」として取りまとめ、参加者に配布しました。当日は、森林所有者などから活発な意見や質問もあり、盛況な発表会になりました。
(緑化森林科)

発表会の様子



～土も虫も平気だよ！～

サツマイモ栽培体験

当センターでは、立川市・昭島市内の保育園・幼稚園のうち希望する園を対象にサツマイモ栽培体験を行っています。今年度は16園の幼稚園・保育園が参加しています。昨年経験した子が今年は早く上手に苗の植え付け作業が出来たと喜ぶ一方、初めてで土に触れるのを嫌がる子供もいましたが、最後には参加者全員が苗の植え付けを無事やりとげました。

今後、秋の芋掘りまで、生育観察や、草取りなどの栽培を体験していきます。
(研究企画室)



農機・資材検討会(展示会)のお知らせ

毎年好評の都野連主催・JA全農とうきょう共催の「農機・資材検討会(展示会)」が、

8月4日(水)～5日(木)の両日開催されます。

当日は、トラクター、耕耘機、防除機、農薬をはじめ、各種の農機・資材が展示されますので、ご自由に見学してください。

開催場所：立川庁舎 開催時間：9～16時



(発行者)東京都農林総合研究センター 保科次雄

公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html>

皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。